

平成24年度研究科横断型教育プログラム(Bタイプ)授業科目

開講方式	Bタイプ (特別開講型)	研究科名	教育学研究科	横断区分	文理横断型	開講場所	iCeMS 本館 (東一条) 2F セミナー室
授業科目名	知の発信と融合:科学コミュニケーションの発信と受信のあり方を考える			講義担当者 所属・氏名	教育学研究科 鈴木晶子、 楠見孝(コーディネータ) iCeMS 加納圭・水町衣里 文学研究科:伊勢田哲治 宇宙総合学研究ユニット 磯部洋明 総合博物館 塩瀬隆之 理学研究科 常見俊直 情報環境機構 元木環		
配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	1単位	開講期	4月13日、20日 5月11日、18日、25日 6月8日、15日、29日(金) 16時30分~18時	授業形態	講義・演習
〔授業の概要・目的〕							
<p>・本授業では、文理融合型の科学コミュニケーションとは何かを、各分野の実践例と科学コミュニケーション論や科学技術社会論などに基づいて説明し、議論をおこなう。さらに、受講者各自が、自分の研究をいかに、社会や他の分野の研究者に向けて発信・受信するために、コミュニケーションをいかにデザインし評価するかに関して実習をおこなう。そして、最終的には各自が自分の研究を社会に向けて発信・受信することをおこなう。</p> <p>・受講者は本授業を通して、研究者として、専門的職業人として、研究の成果をいかに市民や他分野の研究者にむけて発信し、受信すればよいのかを考え、講義と実習を通してそのためのスキルと知識を身につける。</p>							
〔研究科横断型教育の概要・目的〕							
<p>本授業は、文理融合型の科学コミュニケーションに関して、研究科を横断した講師と受講者の相互作用に基づく学習活動によって、研究成果を社会に還元したり、異分野の研究者と連携して新たな学問領域と創造するための発信力・受信力と実践力を育成する。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>1回(4月13日) はじめに:知の発信と融合(鈴木晶子)</p> <p>2回(4月20日) 科学コミュニケーション事始:歴史と所作をまなぶ(加納圭・水町衣里)</p> <p>3回(5月11日) 科学と技術と社会をつなぐには:科学技術社会論(伊勢田哲治)</p> <p>4回(5月18日) 新しい学問の作り方:異分野との連携と科学・文化コミュニケーションの実践(磯部洋明)</p> <p>5回(5月25日) 博物館・科学館における科学コミュニケーション(塩瀬隆之) [場所:大学博物館ミュージアロブ]</p> <p>6回(6月8日) 研究発信のためのスキル(常見俊直)</p> <p>7回(6月15日) 科学コミュニケーションのための情報デザイン(元木環)</p> <p>8回(6月29日) まとめ:知の発信と融合のために(鈴木晶子)</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
授業の6回以上出席と積極的参加、およびオープンキャンパスなどでのポスター発表、小中高への出前授業、ホームページの作成などの科学コミュニケーション実践をおこない、それに基づいて総合的評価をおこなう。							
〔教科書〕							
なし							

〔参考書等〕

藤垣裕子・廣野喜幸 2008 科学コミュニケーション論 東京大学出版会
北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット 2008 はじめよう!科学技術コミュニケーション ナカニシヤ出版
ウィルソン他(畠山雄二ほか訳) 2006 研究者のための上手なサイエンスコミュニケーション 東京図書
その他は <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi/>に掲載します。

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

文系理系問わずすべての研究科の院生を対象とします。
授業外では、博物館・科学館に出かけることを勧めます。